

■今月の特選句

2011年11月号

白鷺の白もて余す刈田かな

板倉肱泉

「刈田」に似合わぬ白鷺の綺麗ということだろう。刈田が白鷺をもて余すのか白鷺が退屈しているのか。「白無垢の自身を知らず白鷺は」。

文化の日無趣味人として一日了る

石川節子

多趣味ゆえにて多忙な人が多いのは、子どもの頃に複数の塾に通ったことが習い性になったものである。「趣味を問はれて無趣味と答へ文化の日」。

秋の聲変な噂もまじりけり

下嶋四万歩

上品、高潔に見えて実は「俗物」が多いのが俳人。俳句の質で勝負できないと知ると人間を貶める。「人の噂に飽きの来てゐる秋の声」なあんてね。

新蕎麦の小さき貼り紙見逃さず

宇佐美徹郎

貼り紙の小さいのが、旨い蕎麦を食わせる店。それを見逃さないのが食通なのだろう。「視力低下で新蕎麦を食ひそびれ」なんてことにならぬよう。

借りがねえと聴く雁が音や萎えの耳

佐藤古城

「雁」のことを「かりがね」というんですね。それを無理やり地口の句に仕立てた涙ぐましい努力を買いたい。「秋の句の地口の雁の特選に」。

大声で歩くケータイ文化の日

横山喜三郎

流行すなわち、文化である。携帯のない生活は歩きながらならまだしも、自転車やときにはバイクで走りながら話してる人がいる。あほやねん。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|------------------------------------|------|
| 大鍋に泳ぎ廻るは小松茸
・・・たまには寒の空気吸はせよ | 有富洋二 |
| 知と情に金の絡んだ村芝居
・・・不倫姦通間男なども | 足立淑子 |
| 松茸に余りにも鼻ちかづけし
・・・おそらくそれは外国産だ | 越前春生 |
| カラオケで鍛えし読経秋彼岸
・・・小節自慢の和尚の読経 | 種谷良二 |
| 熟柿食ぶ名句浮かぶを待ちながら
・・・また柿の句に類句生まれる | 有吉堅二 |
| 台風の片目は眼科の看板に
・・・行方不明の双子台風 | 久我正明 |
| 秋日和原発村に人住めず
・・・ともかく除染を急いで欲しい | 稲沢進一 |
| 山粧ふ泥酔嘔吐ひろがれり
・・・鳥さえ後を濁さぬ鳥ものを | 藤岡蒼樹 |
| 公衆電話並んで寂しさうな秋
・・・一句を詠みし俳人もまた | 藤森荘吉 |
| 焚火して一役担う温暖化
・・・やさしい顔で恐ろしいこと | 三塚不二 |

こおろぎもいっしょに掃いてしまいけり
・・・道理で声に哀しみのあり

村上美和

美術の秋なり浜辺の足跡は
・・・足跡に美を感じたのだな

山本 賜

鶏に心苦しき愛の羽根
・・・羽抜けの羽を再利用せむ

守屋八郎

■今月の滑稽句

	寂しけり稲田の中に草あまた 上弦の月は舟にて星掬ふ	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	才媛と会ふ日約すも大野分	
	十一日とは追悼黙禱九月なる 柿盗れば鐘が鳴るなり昭和の子	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	山津波こたびは紀州うそ寒き	
	乗っ取りはお手の物なり藪枯らし 風評を撒き知らん顔放屁虫	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	翺雲築地の符牒では足りず	
	不似合いな人も交じって紅葉狩 斬新な意見つぎつぎ文化の日	足立淑子 足立淑子
	村中のあか集めたり曼珠沙華 出しものは相変はらずや村芝居	有富洋二 有富洋二
【佳作】	熟柿食ぶ名句浮かぶを待ちながら 嫁いびり今は昔の秋茄子 茸狩り線量計を忘れずに	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
	柿食へど医者 of 門前人群れる 美術展逆に飾りし絵の受賞 金属疲労我が身に多しそぞろ寒	安藤淑子 安藤淑子 安藤淑子
【佳作】	柿食へど医者 of 門前人群れる 美術展逆に飾りし絵の受賞 金属疲労我が身に多しそぞろ寒	
	雁わたる原発禍などたぢろがず 初嵐十三文の足撫でる	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	斬られ役真に迫りて菊人形	
【佳作】	玉肌が縄文色となり夏の果 天に月地に人戦車泥と血と	池田亮二 池田亮二
	誰かしら夜中の携帯秋螢	石川節子
	叱る子も泣く子もなくて障子貼る 正直にもの言い過ぎて柘榴打つ	板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】	知事賞の大根を煮る媒け鍋	伊地知寛

	婚礼の日取りに合はせ神還る 神の留守凶のみくじを捌きけり	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	妻手抜き具なしカレーの秋の暮 葡萄狩昼食あとに組み込まれ 考察は複眼的か赤蜻蛉	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
	いつの間に道幅狭し萩の花 新聞に殻を残して落花生	稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	青蜜柑酸っぱさもまた蜜柑なり 年中や夜長なくとも読書の夜 旅行の日もめる夫婦の夜長かな	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	庭の隅燃えてゐるらし彼岸花 薄の穂右に左に靡きたる 団栗のこつんこつんと地を叩く	今城夏枝 今城夏枝 今城夏枝
【佳作】	寄り添ひてもの言ふ男秋暑し 秋灯百人待ちの本届く 子も孫も犬も帰りぬ障子貼る	宇井偉郎 宇井偉郎 宇井偉郎
	赤蜻蛉地蔵の頭上に翅休め 新選組に襟卷させしリアリズム	宇佐美徹郎 宇佐美徹郎
【佳作】	賽銭を路銀の足しと神の旅 透波とは忍者のことよ翁の忌 撫子の女子サッカーや髪バンド	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
	丹田といふがあたりの夜の秋 遺産などある筈もなし猿酒	越前春生 越前春生
【佳作】	焼栗は正真正銘河北産 豪邸になぜか似合ひし赤のまま 金木犀季節限定道案内	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	明月に餅つく影の兎かな 秋暑し満腹の蚊のとび立てず 亀の背に無断休憩赤とんぼ	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	果てしなく芒の揺るる千の風 父母に捧ぐ祭の地酒の香	加藤澄子 加藤澄子

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 木犀の香に癒さるるメディアっ娘 | 加藤澄子 |
| | 雀らを呼び寄せてをり案山子の眼
長き夜や読みしと気づく文庫本 | 加藤 賢
加藤 賢 |
| 【佳作】 | 南瓜食ふたびに戦後を思ひ出す | 加藤 賢 |
| | 秋高し馬謖を斬るに涙なく | 金澤 健 |
| 【佳作】 | 人の世は打てど響かず鉦叩
秋めくや清算しきり夏の恋 | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 | 望の月汚染大地を照らしをり
這ひ這ひの子と猫じやらず猫じやらし
馬肥ゆるドイツのながーいウィンナー | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| | 風吹けばここにいたのかねこじゃらし
老人のじゃれ合っているねこじゃらし | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | ごろごろと動く靴や燕去る
音階のソラに溢れて酔芙蓉
渋面の螻蛄職人氣質らし | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |
| | 梯子酒杖の代りに秋日傘
光速を越すニュートリノ蚯蚓鳴く | 倉方 稔
倉方 稔 |
| 【佳作】 | 順調に老いて難聴笑ひ茸 | 倉方 稔 |
| | いつせいに駆け出す児童颱風来
無いということの豊かさ秋刀魚焼く | 黒田忠一
黒田忠一 |
| | 日さんさん嫁は秋茄子つまみ食ひ
黄金虫退治し罪や株下る | 小杉 隆
小杉 隆 |
| 【佳作】 | 螻蛄の夫の身かじる B グルメ | 小杉 隆 |
| | 桃の実の小さき瑕疵から傷みだし | 小林英昭 |
| 【佳作】 | 稲架のかげ十月十日の種蒔かれ
八朔や目立たぬうちに式挙げる | 小林英昭
小林英昭 |
| | 福島 of 果物探す応援団 | 齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | その昔手当てなくても子沢山
虫魚花草みんな外来種 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 失業者集団であり餘り苗
千兩と萬兩実れどわれ貧者 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋 |

	後始末やりっぱなしで燕帰る	酒井鹿洋
	七転び八起き互ひに胡麻を摺り どっこいしよで立上がりけり炉辺の老	佐藤古城 佐藤古城
	済んだやうなもんやが癖で生身魂 一枚の田に七人の案山子かな	猿渡 仁 猿渡 仁
【佳作】	そこそこのをんなに好かれどぜう鍋	猿渡 仁
	国難の雲はちぎれて秋の風	澤田 薫恵
【佳作】	黄落の尻餅賜わる下り坂 口と耳間は四寸後の月	澤田 薫恵 澤田 薫恵
	赤い羽根つけてデートに急ぎをり 美男美女競つてをりし菊人形	塩川友艸 塩川友艸
【佳作】	救はれぬ人生もあり赤い羽根	塩川友艸
	世を拗て厠飛び込む特攻蟬	柴田真一
【佳作】	汗一途類句が中に流れをり 夏の雲裸の王様笑ってる	柴田真一 柴田真一
	我が家にも色々ありて秋深む 誉めらるる程には減らずむかご飯 枝豆や上戸の妻と下戸の夫	清水吞舟 清水吞舟 清水吞舟
	蔦蘿自己責任を問はれけり 松茸やこころもとなき品定め	下嶋四万歩 下嶋四万歩
	新涼の空気と思へぬ妻の尻 見なければ良かった笠脱ぐ風の盆 寸胴の羨む瓢箪の括れ	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	野良猫は野良猫の貌秋刀魚焼く 満を持しいよいよ出番運動会 すっきりと空に穴あけ松手入	白井道義 白井道義 白井道義
	話下手それでもコオロギチロチロチロ 農婦のまま寝付くコオロギと 夜通しコオロギくやしいけど分けを聞く	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
	秋の暮犬もとことこ散歩道	鈴木哲也
【佳作】	秋風は一人さびしく部屋の中	鈴木哲也

	洗たくは気になる天気炎天か	鈴木哲也
【佳作】	ご飯派とうどん派そば派银杏散る 焼芋を抱いて境内猛ダッシュ 木の実降る地球の臍にいちゃもん	鈴木みのり 鈴木みのり 鈴木みのり
【佳作】	濁酒飲んで心の清みにけり 虫送り居場所悪くて残りけり 説法は帰りに忘れ秋彼岸	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	吊るし柿皮むきしころ思ひ出す 隊列は誰が決めるか渡り鳥 朝食のスープを煮込む夜なべかな	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	食卓に家族全員野分かな イチローも人間だった瀬祭忌 夜業出づ唐草模様の頬かぶり	高橋 都 高橋 都 高橋 都
【佳作】	夫唱婦随おんぶ飛蝗の飛びにけり 肉体豊満黒葡萄充実 韓流ドラマ字幕目で追ふ読書の秋	高橋素子 高橋素子 高橋素子
【佳作】	ままごとの祝ひまんまや赤のまま あるぢなき案山子になりしぬひぐるみ 燃えてゐる魔女のいたづら粧ふ山	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	銀漢や釜ヶ崎かて俳句ある ひやとひのふるさとおもふまんじゅしゃげ 秋灯や通天閣の顔見へる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	ぬばたまを飛び出す胡麻や叩かれて 薔薇を持つ女人ありたり喉ぼとけ 腰曲げて大和撫子稲を刈る	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	台風や予想進路の裏をかき 瀬祭忌机上の書類山崩れ	種谷良二 種谷良二
【佳作】	ふと思ふ案山子が声を出せたらと 韋駄天の御守り腰に運動会 二枚目の舌で味あふ猿酒	田村米生 田村米生 田村米生
	老いらくの恋蚕が桑の葉食む音す	土居忠行

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 写経終ゆゴキブリの視線感じつつ | 土居忠行 |
| 【佳作】 | 羅を着て乙女らの食べ歩き | 土居忠行 |
| 【佳作】 | 病む妻へ介護の夫へ小鳥来る
相部屋の肴に新酒振舞へり
秋風と山の吊橋渡りけり | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| | 働かぬ人にも勤労感謝の日
二枚目を脱ぎて気楽な日向ぼこ | 永島董玉
永島董玉 |
| 【佳作】 | 落葉焚行商人は揉手して | 永島董玉 |
| | 竹取りの翁気取りで竹を伐る | 西をさむ |
| 【佳作】 | 蜉蝣の日記を付ける暇も無し
虫の声聴いて治まる腹の虫 | 西をさむ
西をさむ |
| | なにほどのことにあらねど扇捨つ
毬栗の門を出でゆくヘルメット | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | どっこいしよと思はず口にして残暑 | 原田 曄 |
| 【佳作】 | 人はカラオケ虫はアカペラ鳴き競ふ
仏滅も大安もなく小鳥来る
鴟鳴くや恋知り初めし声ならむ | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 秋深し隣も隣を見ていない
貝になる蓑虫確かにそう言った
名月や大器晩成にもホコリ | 彦阪義久
彦阪義久
彦阪義久 |
| 【佳作】 | 生身魂紆余曲折の皺で笑み
蔵のなき我が家に迷ふ黄金虫
芋虫の真つ青になり畏まる | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | 虫の音の噴出してゐる野分後
畦道に突き刺したやう曼珠沙華
堂々の遅刻のひとつ帰り花 | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| | 秋刀魚食ふ忘我のなかに嗜虐あり
ときとして重力異常糸瓜棚 | 広瀬雅幸
広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 漆喰の壁の泰然野分吹く | 広瀬雅幸 |
| | 網船のひろぐや鯿の群の舵
唯物の茶髪生え際秋深む | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 気にしないでも気にしてる夜長かな
長き夜や古き良きこと思ひ出す | 藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 手鏡の中にわたしと葉鶏頭
足裏の敷居ひんやりチチロの夜
忘れもの探しに行きし赤トンボ | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 何故いないわたしわたし詐欺夏終る
三画の文字を五画に大文字草
血をくれと哀願するかに名残の蚊 | 前川敏夫
前川敏夫
前川敏夫 |
| 【佳作】 | 明月やなにがなくても酒があり
明月や古くともよし注ぎ手妻
団子より酒で眺める月今宵 | 前 九疑
前 九疑
前 九疑 |
| 【佳作】 | 「渚にて」「ゴジラ」の影や秋の暮
霧のなか「カサブランカ」は終りけり
トラさんのロケ地めぐりや敗戦日 | 松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治 |
| 【佳作】 | 七日命ギフ蝶のごと大臣あり
満月を串刺にせむスカイツリー
気象図もおどろおどろの連れ颱風 | 丸山絃一
丸山絃一
丸山絃一 |
| 【佳作】 | かなかなと蝸切字守りけり
飛び火して城焼きつくす曼珠沙華
松茸の香りを虫の先取りす | 三木蒼生
三木蒼生
三木蒼生 |
| | 落ち所考えもせず栗のいが
熟れ柿にしたい放題鴉めは | 三塚不二
三塚不二 |
| 【佳作】 | 海賊船スワンそこのけ湖（うみ）の夏
せわしげやとんぼ止まれぬ一輪車
香に咽せて呼吸七分に木犀は | 三橋一笑
三橋一笑
三橋一笑 |
| 【佳作】 | 廃鉱に残るトロッコ秋桜
向日葵の中の個性派そっぽ向く
花火師の法被に海の匂ひかな | 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝 |
| | 絵手紙の割れ目から描く毛桃かな
野ぶどうにたかって来たる熟女たち | 村上美和
村上美和 |
| | イチローの独り活躍天高し | 百千草 |

	えのころ草あの町この町灯がともる	百千草
【佳作】	似合ひよりミスマッチよし長き夜	百千草
	大空を割って声援運動会	森岡香代子
【佳作】	ビルの群れ寒さをくぐる日陰かな 玄関の隅を寢座の虫の声	森岡香代子 森岡香代子
	災害に備へてみると食ふ夜食	守屋八郎
	真実味帯びし目黒の秋刀魚かな	守屋八郎
	その紐をゆるめるときに鳴り鳴子	八木 健
	始めから別棟蓑虫の夫婦	八木 健
【佳作】	つくるのも回すのも下手木の実独楽	八木 健
	じゃんけんぼん孫に負けたり敬老日	八洲忙閑
【佳作】	二人して物忘れして敬老日 色恋しもつと濃ひ色欲しき秋	八洲忙閑 八洲忙閑
	マンモスは亡び穀象存ふる	柳 紅生
【佳作】	弁慶の菊師の背中もたれけり マザコンの唐辛子までお節介	柳 紅生 柳 紅生
	一人居の秋の日溜り猫欠伸	柳澤京子
	猫の背に北海道地図馬肥ゆる	柳澤京子
【佳作】	天高し尿りし夫人裾ひらり	柳澤京子
	古寺の釈迦に説法法師蟬	山下正純
	ひたすらの泣きか笑ひか蟬時雨	山下正純
【佳作】	石つころつかみよちよち夏帽子	山下正純
【佳作】	種茄子の尻のいよいよどつしりと 茶の花や何かと言へばお茶にする 松茸昆布ありますの札裏返る	山本あかね 山本あかね 山本あかね
	紫式部打つ雨に実をこぼす	山本けい子
【佳作】	来年も役に立ちたい秋簾 今日の月病の夫に窓を開け	山本けい子 山本けい子
	体育の日ますますまるく家に居る	山本 賜
	椋鳥のみな肥えてゐるこの辺り	山本 賜
	電気など投げ捨ててをりはたた神	横山喜三郎

夏燕耐震補強してをりぬ

横山喜三郎

干物滴に月の濡るるかな
鈴虫の声陋屋に筒抜けに
天高しホールインワン狙へども

渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを